

〔曲名〕 Maledetta Serenata

傷心のセレナータ

〔曲種〕 serenata

〔作曲者〕 Domenico De Giovanni

ドメニコ デ ジョヴァンニ

〔編曲〕 Jiro Nakano

中野二郎

一旦、魅力にとり憑かれると容易に離れられなくなる性情が禍して、今日までも永年マンドリンに拘わっている筆者なのであるが、

本曲もまたかと思われるに違いないデ・ジョバンニの作品。

先回第5集に" 若し美しかったなら" の時、埋もれた作品を挙げた中の「呪いのセレナータ」は本曲で、敢えて「傷心」とした。

元来近世になってからのセレナータは、どの辞書にもある通り、……夕べに恋人などの窓の下で奏でる夜の調べ……で、

簡便に携えて伴奏できる楽器を伴うとしてあり、それにはマンドリンやギターが最も相応しいのである。

従ってマンドリン曲にはセレナータが非常に多く又佳曲が多い。

佳曲としてのセレナータでは、モーツァルト、シューベルト、グノーなど知らない人はいないが、

同じセレナータでも" 甲斐なきセレナータ" " 永遠のセレナータ" " 気粉れなセレナータ" " 滑稽なセレナータ" " 感傷的なセレナータ"

" 天使の……" " 五月の……" " 月への……" " ピエロの……" " 酔っ払いの……" " 何処（地名）風の……" 枚挙に遑（いとま）がない。

従って本曲も演奏の多少の縁（よすが）になる意味で" 呪い……" でも何らかの足しになればそれで構わないと思う。

1993年 6月 発行

マンドリン合奏曲集 6 集 (JMU版 パート譜付) より